

## 医学研究室配属Ⅱ

科目責任者：矢澤卓也

### I. 前文

「科学的探究（Research）」は、令和4年度に改定された医学教育モデル・コアカリキュラム内において、医師として求められている基本的な資質・能力の一つとして明確に唱えられ、本学においてもディプロマ・ポリシーに掲げられている。本自由選択科目では、各研究室で研究の進め方等を学ぶことにより科学的思考力を身に付け、現代の医療をもってしても未だ治療の困難な疾患に対し「科学的に」挑戦する開拓的医師となる基礎作りを目指す。

### II. 受入可能人数

各配属研究室での受入可能人数による。研究課題および担当教員については後日発表し、各担当教員への配属希望を申し出、研究課題について話し合ったのちに、教務課に配属希望研究室を申し出る。なお、医学研究室配属への参画は随時受け付けている。

### III. 担当教員

基礎医学・臨床医学・基本医学・先端医科学研究センターの教員。

### IV. 学習内容

配属を受け入れた教員が行なっている研究に参加する。

研究への参加を通じ、円滑な研究遂行には他の研究者との協力関係が重要であることや、研究内容について守秘義務が存在することも学ぶことになる。この経験を通じ、座学・実習で学んできた事柄と研究の最前線で繰り広げられている事柄を有機的に結びつけることができ、他者との協調性、研究におけるプライオリティーの重要性についての認識が涵養される。

### V. 学修の到達目標

- ・実際に行われている研究に触れることにより、実験の基本操作ができる。  
これにより、将来の大学院進学において極めて有利なスキルを身につけることになる。
- ・疾患について、より広く深く理解できる。
- ・リサーチマインドを持つきっかけとなり、能動的学修の重要性が理解できる。
- ・医師、研究者にとって極めて重要である協調性、守秘義務遵守の重要性を身につけることができる。

### VI. 成績評価の方法・基準

出席状況、配属先から提示された課題の達成度、勉強会やセミナー等への参加状況、学会発表や論文などを参考に、各配属先の指導教員が評価する。

### VII. 使用する教材・資料など

「ここからはじめる研究入門 - 医療をこころざすあなたへ」Stuart Porter 著、武田裕子訳。医学書院。

「医系 流れがわかる研究トレーニング How To」佐藤雅昭、草場鉄周、富塚太郎著。メディカルレビュー社。

その他、各配属先の研究室で推奨された図書や文献など。

### VIII. 質問への対応方法

その都度行う。

IX. 求められる事前学習、事後学習及びそれに必要な時間

事前学習：指導を受けている教員から出される研究途中での問題点について検索する。(30分)

事後学習：実験結果をノートにまとめる。(30分)

X. コアカリ記号・番号

医学教育モデル・コアカリキュラム（令和4年度改訂版）

PR-01-01, PR-02, PR-03, PR-04, LL-01, LL-02, RE-01, RE-02, RE-03, RE-04, RE-05,

PS-01, PS-02, PS-03, IT-01, IT-02

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

実験結果について教員とのディスカッションを行うことにより、その都度フィードバックされる。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	◎
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	◎